

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙「みらい」
NO. 4406
23年12月12日(火)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

春闘討論集会開催

おはようございます。

早いもので12月も中旬にはいりました。ゆうパック関係では、これらが最も取り扱い個数が多くなる時期です。またインフルエンザも流行しています。体調管理には十分注意しましょう。

12月10日(日)長崎県春闘共闘会議の「春闘討論集会」が勤労福祉会館で開催され、山田支部長が参加しました。集会は感染症対策として2会場に分かれて行われ、オンラインも併用での開催となりました。

集会は溝口副議長が開会挨拶を、乾議長が春闘共闘会議を代表して挨拶を行いました。続いて国民春闘共闘の齊藤事務局次長の講演へと移りました。

「たたかう労働組合のバジョンアップで24国民春闘に勝利しよう」の演題での講演では、日本の労働者の実質賃金は18ヶ月連続で下がり続けている。一方で2022年度の大企業の内部留保は史上最高となっている。賃上げを抑制し、大幅なコスト減らしなどで利益を膨らませて、内部留保を積み増したことは明らか。また、「労使対等原則の形骸化」が、賃金が最も上がらない大きな原因と指摘しました。



24春闘で賃金引き上げの要求を実現させるためには、たたかう労働組合のバジョンアップが必要となる。要求提出と

ストライキ等を等による職場闘争、労働者の仲間を増やす取り組みが重要となる、と集会参加者に訴えました。
基調講演後の質疑討論では、ストライキや賃上げについて多くの質問がありました。

続いて「2024春闘のとりくみについて」鳥巢事務局長より提案がありました。

主な取り組みとしては旗開きの開催、新春宣伝行動、中小企業、団体訪問行動などの地域総行動、最低賃金の全国一律制の実現にむけた取り組みなどが提起されました。また、シカゴで行われる「レイバー・ノーツ大会」への長崎からの参加者が決意表明を行いました

昼の休憩を挟み午後からは分散会へと移りました。分散会では小グループに分かれ「24春闘への構え」「ジェンダー課題に対する現状やとりくみ姿勢」の二つのテーマについて意見を出しあいました。

24春闘への構えではストライキについて様々な意見が出されました。スト権を確立してストライキを視野に入れ春闘をたたかう組合もあれば、公務職場の組合員からはスト権がないなど各組合で事情は様々でした。



各組合の共通の課題でもある組織拡大については、レクレーションなどを企画して未組織の人に参加してもらおう取組みなどが紹介されました。また、ジェンダー問題についてはLGBTの勉強会を計画しているとの発言もありました。
分散会終了後、各グループから簡単に報告を行い、その後は全体での討論も行い、集会を終了しました。

支部忘年会

12月8日(金) 19時から、居酒屋「珠々」で支部の忘年会を開催しました。繁忙期真っ只中の開催でしたが、現役組合員、退職者組合員、共闘関係の仲間など約20名の出席で大いに盛り上がりました。

話題は職場の話が中心でしたが、歴史の話やプライベートの話など皆が楽しく語り合いあつという間の2時間でした。



期間雇用パート労働者の皆さん！ 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。
1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

郵政ユニオン長崎のホームページはこちら



仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員希望者全員に正社員化を。

ゆげせ、均等待遇、なげんご差別。

ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ！